

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 平良 愛香

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

アドヴェント礼拝 説教

「ザカリヤの預言」

ルカによる福音書 1 章 68 ～ 79 節

北村慈郎 牧師



集会での北村牧師

ているのか、その根源についてお話しすべきではないかと思いましたが、そのことを短い時間ですの、簡潔にお話しさせてもらいたいと思います。

最近出版された鈴木道也著『違

わたしは、一昨日12月4日で満83歳になりました。今年1月と9月に、牧会経験のある二つの教会の創立記念礼拝の説教を頼まれました。その時、これが最後のわたしの説教になると思いますと言って、説教をしました。農伝でもおそろくわたしの説教する機会は、これが最後ではないかと思っています。

そこで、最後にこれから牧師になられる農伝の学生の方々に、何を語ったらよいのかを思いめぐらし、やはりイエス・キリストの福音とは何かという、教職にとっても信徒にとっても、キリスト者として何を信じて生き

信仰理解の相違とは、簡単に言えば、信仰告白のキリスト像とイエスの歴史的生の違いと言えます。教団の中で「信仰告白と教憲教規」を教会の基準にしている人たちは前者「信仰告白のキリスト像」に立つ人たちと言えます。聖餐を福音書の5千人、4千人の供食物語を一つの

起源に考えて、「開かれた聖餐」をしている人たちは後者「イエスの歴史的生」を教会の基準にしていると言えます。わたしは、イエス・キリストの福音の根底には「イエスの歴史的生」があると思っています。

この相違は、キリスト者とは、教会とは、をどのように考えるかの違いにもなっています。

以下「イエスと出会う」福音書を読む」という本からの引用になりますが、この本の著者はカトリックの人ですので、ちよつと違和感のあるところも、お含みおきください。

「キリスト教徒のしるし」として、「十字架を身につけ、熱心に祈り、儀式（礼拝）に参列していれば、キリスト教徒と言えるだろうか」。この著者がこう問うているということは、そのように考えるキリスト教徒がいるということなんです。それに対してこの著者は「そうではなく、人々を分け隔てなく迎え入れることがキリスト教徒であることの何よりのしるしとなる。様々な価値観を受け入れ、国籍が違っても互いに尊重しあい、一人ひと

りを大切にし、共につくりあげていく喜びをわかちあおうとするのが、キリスト教徒だ。『ここでは敵とも言葉を交わしている。これがイエスの友達のしるしだ！』と人々は言うであろう」と述べています。

を生み出して行くことができるとき、自由に考え、行動し、発言できる権利があるとき、幸せだ。そして、追われたり、軽蔑されることなく神を信じ、神を知ることができるとき、それから……まだまだある。これらの幸せを、神はすべての人にお望みになっている。

「幸せをさまたげる」

地球上に貧しい人はたくさんいる。国全体が貧しいこともある。食料がなく、耕す土地もなく、仕事もなければ、利用できる資源もない。彼らは、多くの場合、周囲から、そのまま放っておかれている。富のある人は、ときに、自分の財産を楽しんだり、増やすことばかり考えていて、なにももたない人の犠牲のうえに今の生活が成り立っているということをまったく考えない。貧しさが原因でどれだけ不幸が生み出されていることだろう。信仰や思想が理由で、あるいは単に国の指導者たちにとって都合な存在だったたりするために、迫害されている人は大勢いる。暴力による犠牲者の数も多い。戦争や国外追放、反乱、家宅侵入、離散した家族。人が人の幸せを破壊することもある。他人が幸せになるのがゆるぎなくあったり、すべてを独占しないと気のすまない人たちによる行為だ。

「幸せ」

毎日ご飯が食べられ、住む家があり、生きていくのに必要なだけのお金があつて、自分の場所と呼べるところがあるとき幸せだ。つらいときに慰めが得られ、喜びを味わうことができ、正義が保証されているとき幸せだ。愛する人、愛してくれる人、惜しみなく与える人、信頼できる人に囲まれているとき幸せだ。また爆弾や戦車が存在しない平和な世界で子供を育て、なにか

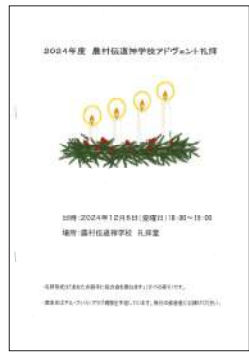
「幸せをもちたらず人々」

他者に心を開いている人は、地球上のどこにいても、神が人々に望まれる幸せを実現しようと立ち上がる。腕を組んだ待っているようなことはしない。平和をもたらし、正義を實踐し、一人ひとりの尊厳を大切に、良心に耳を傾け、誠実な行動をとり、飢餓と戦い、人々の権利を守り、喜びを富に見いださず、互いに大切にしようという世界をつくらうとする。彼らは、「幸い」な人々だ。「幸い」なとき、神への愛とイエスへの信仰を實踐している。

ザカリヤの預言の中にも、マリアから生まれるイエスは、「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く」と言われています。また「マリアの賛歌」では「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えていた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」(ルカ1章51〜53節)と書かれています。

そういうイエスの歴史的な福音なのです。わたしは、「イエスの歴史的な生」を排除して、頑なに「信仰告白と教憲教規」を主張する教会は、戦時下教団の教会のように戦争協力に巻き込まれるように思えてなりません。最後に、この農伝を卒業して

牧師になって、みなさんが遣わされる教会は多かれ少なかれ「信仰告白のキリスト像」の優位な教会が多いと思います。「イエスの歴史的な生」を大切にしようとしても、すんなりとそれを共有してくる教会は少ないと思います。ですから、既成の教会に遣わされても、根気強く開拓伝道をするつもりで働いてもらいたいと思います。一人でも二人でも時間をかけて忍耐強く理解者になってもらう努力をしながら、「イエスの友達」「イエスのチーム」としての教会共同体を「礼拝共同体」と共に建てていきたいのだと思います。主がそのようにみなさんを導いて下さいますように！ 祈ります。



【夏期実習報告】

池田昌功(学生4年)

昨年8月1日から25日までの期間に日本キリスト教団宮城県白石教会で教会実習をさせていただきました。宮城県南部に位置する白石市は古くから交通の要であり、仙台市、福島市、山形市の3つの都市の中間に位置することから、アクセスも良く、交通網も整備されています。白石市は歴史性のある町で、遺跡、古墳等があり、教会の真裏には白石城があります。人口は3万人というデータが出されています。白石教会は代々農伝の学生の実習を受け入れてもらっている教会で、牧師は池田春善さんで農伝卒業生です。白石教会は3・11の地震で倒壊し、その数年後立て直しています。教会墓地の大きな石が地震でずれたと聞きましたが、地震の多大な影響を思われます。白石教会の創立は1886年になりますので歴史のある教会になります。実習内容として聖書を読む会の担当、説教奉仕、納骨式出席、様々な打ち合わせ参加、環境整備等、多くの働きを学ぶことができました。

実習が始まる前は自分に務まるか心配でしたが、結果的には「楽しかった」という一言になります。この言葉がなぜ出て来たのか、自分なりに考えてみたのですが、やはり教会の雰囲気なのだろうと思います。また、牧師と行動を共にしてみても、牧師という仕事がとても多岐にわたるものだと思われました。こんなこともやるのかと何度も思わされたものです。牧師はただ礼拝を守るだけではないことを学んだ次第です。これは裏を返せば、牧師と言う仕事は世の中との関係を担う者であるという事でもあると思います。わたしが経験したのはほんの一部ですがありませんでしたが、教会と世の中は切れることがなく、それに携わる牧師はそれを見つめ続ける存在なのだと思います。実習を通して、教会が果たす役割、また教会が求められているものがあると思っています。礼拝を守る共同体には宣教の業を担う務めがあります。そして、地域とのかかわりの中で教会ができることも模索していく必要があるのだと思います。

これから世界が移り変わる時も、教会はその働きを大切に、変わらないものを大切にすることで、時代に合った教会像を作っていく必要があるのだらうと思います。信仰共同体の存在意義を含め、ここからの深まりは自分で探さなければいけないと思っています。色々な経験をした教会実習ではありましたが、わたし自身を一回り成長させてくれた経験であったことは間違いないようです。受け入れて下さった白石教会の皆様、また今回実習の機会が与えられましたことに深く感謝いたします。

高柳研二(学生4年)

既に単位取得に必要な実習は完了していますが、学生面して現場で学ばせて頂くのもこれが最後となるので今年も行かせて頂くことにしました。行先は北海道。ウィットマー前校長の授業で学ぶ機会もあり、是非訪問してみたいと考えていたところ、ちょうど日本訪問中の台湾の玉山神学院の学生2名が北海道に行く予定となっていたので、その行程に便乗することにしました。訪問先は留萌学園伝道所、名寄教会、道北クリスチャンセンター、札幌手稲教会、浦河ベテランの家、二風谷アイヌ資料館、ウポポイ民族共生象徴空間(国立博物館)などで、これを10日間で回るという慌ただしいスケジュールでした。

留萌学園伝道所では地域の子どもたちの居場所としての働きについて三浦牧師より話を伺いました(訪問したのは平日でしたが、後日個人で再度訪問する機会があり、日曜日の礼拝に出席させて頂くことができました)。名寄教会はウィットマー先生の長年にわたる活動拠点で、またわたしが洗礼を受けた禿牧師の母教会ということもあり、話に

はよく伺っていました。浦河べてるの家については、ちょうど農伝の特講授業で創設者の向谷地生良さんのお話を伺っていたこともあり、その活動に大変強い興味を持っていましたので、今回こそを訪問できたのは良いことでした。ここも僅か一泊の滞在でしたので極めて限られた時間でしたが、それでも現場を訪れて、活動を見て、当事者の方たちから直接話を伺う事を通じて「当事者研究」への理解は格段に深まり、正に百聞は一見に如かずの学びの機会を得ることができました。ウポポイおよび二風谷資料館ではアイヌ文化について改めて学ぶ機会となつたし、北海道で活動されている台湾先住民出身の宣教師であるデイヴアン・スクルマンさんの両国の架け橋となるような働きについてもじっくりと話を伺うことができました。

訪問した各教会において様々な出会いがあり、改めてキリスト教「業界」の狭さを感じさせられました。また、教会同士の繋がりや支え合いの活動など、都心とは違った教会間の関係性があることを改めて知ることになりました。

この実習でお世話になった各教会の皆さまに改めて感謝を申し上げます。

【農村伝道シンポジウム】

山崎麻里子（学生1年）
1月22日（水）毎年恒例の農伝シンポジウムは、日本キリスト教団周防教会牧師で、亀の里アパートメントハウス連絡員の村田敏氏（神学科32回卒）をスピーカーとして迎え、「こんな牧師になつてしまった・教会と地域社会」というテーマで開催された。周防教会は山口県岩国市玖珂町にある礼拝出席者10名程の小さな教会で、障がい者が暮らす「亀の里アパートメントハウス」が教会堂の隣に建っています。とは言え、障がい者施設や老人施設ではないので、職員は置かず、村田牧師が連絡員をしています。大阪府出身で、当時でも珍しく高卒から直接、農村伝道神学校に入学し、1981年に卒業されました。関西出身者らしく話が落語家のように流暢で面白い。着任以来、この瀬戸内の小さな町の小さな教会を43年間の永きに渡り牧会されて来た方です。



講演中の村田牧師

いは「うるさい」とか「障がい者差別だ」と思わせない対応も大切だと言います。また、「知らなかった」、「無知」故の差別は責められるべきではないとのこと。「いけない尽くし」では、「喋れない社会」となるかもしれないからです。そしてもしも障がい者への疑問があれば率直に聞けば良い、障がい者もまたその質問をしてくれた人の立場を配慮すべきだと言われます。

ヨハネ福音書第8章3〜11節の「姦通の女」を引き合いに、人間や社会の「正義」とは決して絶対的なものではなく、状況や時代と共に変化するものだから、人は自らの正義を一度は疑って見るべきではないかといわれます。イエスは言われた「あなたたちの中で罪を犯したことはない者が、まず、この女に石を投げなさい。」（ヨハネ8章7節）わたしたちは正義という名の石を人に投げ付けてはいないでしょうか。わたしは一度、手に握りしめている正義の石を手放すことをうながされているのではないかと問いかけられました。つい最近までご自分も掌に握りしめていた、はたしてキリスト教会は？、と村田牧師は、シンポジウムの最後に語られました。

【農村伝道研究室】

池迫直人（教師）

本年度より研究室の活動を、控えめに再開するとの報告を差しあげました。現在、紀要に掲載するために、十分な資料も手元にありませんが、少しずつ本校の「農村伝道」についての考察をしたためています。この報告はその事前PRになります。

仮題として「農本思想と農村伝道」とでもしておきたいと思っています。まず本校の歴史を時代区分を施した上で論ずるつもりです。第1期を中央農村教化研究所設立から、営利農場及び保育科廃止まで、第2期をその後から霊性をカリキュラムに加えるまで、第3期をその後から現在までとしました。第1期を農村・農業への伝道期、第2期を人権・平和を課題とした宣教期、第3期を霊性を課題とした宣教期とします。

ご存じのように本校は、71年に営利農場及び保育科を廃止しました。その発端は、日本基督教団で1968年に機構改正案を可決されたことにより、農村伝道専門委員会が伝道専門委員会に変革されたことによります。

敗戦直後の1950年産業別就労者の過半数近くは農民でした。各教区には農村伝道部が置かれました。それは48年に教団が、農村伝道25カ年計画を立ち



環境改善の取り組み（石畳）

上げたことによります。60年には日本の総人口は9千250万人で、農業者は就労人口の3割程度にまで落ち込みましたが、生産性も向上し69年には米の作付面積が最大になりました。それと同時に米が余りはじめたのです。この70年あたりから、製造業と農業所得の格差がひらき始めます。就業人口の推移とかなじように戦後以来農村から都市部に出てこざるを得なかった農民が労働力を提供した・せざるを得なかったのです。ちなみに、新校舎の基礎工事をなさったある方は、農家の次男で若い時に新潟を飛び出して以来、実家には戻ったことがないと言われていました。

いづれにせよ、資金が途絶えた本校は赤字運営に急転します。71年には、先のように神学科以外のコースは廃止されます。その際の財政赤字額は、保育科466万円、神学科449万円、東南アジア科241万円、農場111万円、幼稚園28万円（1千円以下四捨五入。70周年記念誌より）でした。財政上の赤字運営をふまえて神学科だけを存続させた背後に、何の根拠があったのでしょうか。

この71年について共有できる理解がありません。それは「農の視点」、「本校の使命」をいかに理解するのかという課題が今にまで受け継がれています。この「農の視点」により「農」は切り捨てられたという理解と、「農」を継承したという理解があるようです。

ここで「農」という言葉が極めて曖昧に翻弄されていることにより問題の所在が分かりづらくなっています。「農」とは何か？…「農は資本主義に合わない。なぜなら天地自然を相手にしているからである。（橋孝三郎、「農本主義のすすめ」宇根豊著より）」この言葉は資本主義を批判する思想として社会主義が脚光を浴びていた大正から昭和初期のものです。

また、ある年に奥羽教区農村伝道推進協議会に招いた工藤昭彦さん（当時、東北大学大学院）は、「農業問題」とは「小農経営が支配的な農業という産業分野において、資本主義の矛盾が、解決困難な様相ともなつて政治問題化する」といいます。

もちろん本校も、資本主義社会の制度のもとで営まれています。収益、赤字運営だけを指標にする農業の息苦しさから、解放たれる希望を農場が醸し出すことができればさいわいです。



たくあんの漬物づくり

【学事報告】

- ◇10月1日（火）後期授業開始
- ◇10月15日～19日、農伝オープンキャンパス
- ◇10月19日（土）農伝デー実習報告会、ポトラック昼食会、キヤンパスツアー、学生会や後援会による物品販売参加者53名
- ◇神学校日礼拝派遣
- 9月1日 永山教会、三・一教会
- 9月15日 生田教会
- 9月29日 川和教会
- 10月6日 小諸教会
- 10月13日 高座渋谷教会、横浜

- 港南台教会、上大岡教会、愛川伝道所、林間つきみ野教会
- 10月20日 相武台教会、大泉教会
- 10月27日 埼玉和光教会、百人町教会
- 11月17日 埼玉大通り教会
- ◇11月11日（月）第1回入試
- ◇11月12日（火）アジア学院来校
- ◇12月6日（金）アドベント礼拝「ザカリアの預言」
- 説教 北村慈郎 牧師
- ◇12月16日（月）～21日（土）集中講義「接心」
- ◇25年1月22日（水）農村伝道シンポジウム「こんな牧師になつてしまつたー教会と地域社会」講師／村田敏牧師
- ◇1月29日（水）後期授業終了
- ◇1月30日（木）後援会主催「リオフクシマ」上映会
- ◇2月4日（火）～7日（金）集中講義グローバルキリスト教史 大倉一郎
- ◇2月4日（火）第2回入試
- ◇2月12日（水）卒業論文発表会
- ＊今後の予定
- ◇3月5日（水）第75回卒業式
- ◇4月9日（水）第77回入学式
- ＊後期宣教学特講
- 10月8日「宣教活動に潜むリスクー法律実務現場から」平良一器
- 10月15日「模擬葬儀」瀬戸英治
- 10月22日「要約筆記 聞こえのサポートについて」高尾由希子

- 11月26日「模擬結婚式」平良愛香
- 1月14日「精神医療と宣教」野本千春
- 1月21日「ミステイクとポリテイクー霊媒（メディア）としてのキリスト教雑誌」堀真悟
- 1月28日「ハンセン病、コロナ、エイズ」教会は感染症の差別者にならずにいられるか？」平良愛香
- 【同窓生等個人消息】
- 任地が変わつた等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。異動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ幸いです。
- ＊逝去
- 宮本弘子（保育科3回卒）7月9日逝去 87歳
- 鈴木敏（神学科37回卒）8月28日逝去 94歳
- 綱島敏光（神学科29回卒）9月12日逝去 84歳
- 足立守（神学科9回卒）10月12日逝去 93歳
- 岩高澄（神学科9回卒）11月5日逝去 89歳
- 藤田房二（神学科7回卒）11月22日逝去 92歳
- ＊異動
- 森宏士（神学科45回卒）大宮共立教会主任担任教師就任